

二〇三三年二月一七日

図書館の肘掛け椅子に春眠し
雪嶺の天辺を染む夕日かな
春眠の手が握りしむ積み木かな
ポケットより手品の如く落の臺

千鶴
隆松
ひのと
うつぎ

二〇三三年二月一六日

余寒なほ拳がらぬ腕を持て余す
降り立てば故郷の山吾に笑む
廃線の鉄路の錆びて花莖
春服や色それぞれに三姉妹

もとこ
あひる
澄子
むべ

二〇三三年二月一五日

露天湯に浸れば香る野水仙
腰伸ばし杖後ろ手に梅眺む
寝る前の絵本選びや春灯下
抜歯され口中虚ろ春寒し
薄氷に来てつんのめる縄電車
春寒し大往生と諾へど
黒ぼこをニタ分けに出づ落の臺
仏壇の先祖さまにも愛のチョコ
咳すれば咳で応へるインコかな

千鶴
ふさこ
ひのと
はく子
ひのと
せいじ
素秀
なつき
みきお

二〇三三年二月一四日

背にカイロ腰に毛布の厨かな
抹茶点てお裾分けなる愛のチョコ

やよい
満天

ふらここやおでこで受くる夕日かな
かえる

雛の歌唄つてくれる電話口
顔よりも大きな欠伸する子猫
おやすみを言うて雛の灯消しにけり
吾子の恋実れと祈るバレンタイン
あひる

二〇三三年二月一三日

不覚にも枕を濡らす春の夢
新聞の濡れてとどきし夕時雨
よし子

二〇三三年二月一二日

小流に指差し入れて芹を摘む
うつき
軽トラに隣の雪も積みにけり
ひのと
四温なる日にふつつと旅心
はく子
芹を摘みながらのグルメ談義かな
よう子
音楽会春の曲には肩揺らし
たか子
二〇三三年二月一日
輪になつて魚網を広く島日永
ひのと

毎日句会みのる選・二〇三三年二月一九日